

「原子力発電から考える私の思い」

青森県立青森中央高等学校
総合学科 2年 長尾 明美

私は最初、原子力発電は必要ではない、いや、使用してはいけないと思っていました。一番の理由は、使用済み核燃料が排出されるからです。具体的には、使用済み核燃料とは、ある期間原子炉内で核燃料を使用した後に取り出した核燃料のことです。この核燃料は人間が近づくことすらできない高い放射線レベルにあり、近づくと確実に死んでしまいます。そんな危険な燃料をむつ市の中間貯蔵施設に貯蔵して、もし事故が起きた場合は、むつ市だけではなく青森県全体に多大な被害を及ぼしかねないと思ったからです。

まず私が疑問に思ったのは、日本には、原子力発電以外に、火力や風力などの発電方法があるのに、なぜ危険なリスクを承知してまで原子力発電を行っているのかと思い、調べてみました。日本は世界でも有数のエネルギー消費大国にもかかわらず、約9割を輸入に頼っています。火力や風力などの自家発電ではまかないきれないのが今の日本の現状です。よって、わずかな燃料で多くのエネルギーを生み出すことができ、使い終わった燃料はほとんどが再利用できる原子力は日本にとってこれからも必要不可欠になると考えました。そこで私は『朝日新聞』に書かれていた岸田文雄 前自民党政調会長（現・首相）の言葉を思い出しました。「使用済み核燃料を再処理すると廃棄物の処理期間は300年、直接処理すると10万年かかるといわれている。この処理の問題をどう考えるか。」という言葉を見て私は、ロケットに核のごみを載せ太陽に捨ててしまえばよいのではと考え、調べてみました。ロケットに核のごみを載せるというのはとてもリスクが高く、現代の技術を駆使しても、ロケットが放射線にたえられない可能性があり、この考えは廃止されました。そして、最後の手段として残されたのは、地中深くに埋めるという考えです。すでにフィンランドでは再処理せず廃棄物のままではあるものの、すでに最終処分場が決まっています、地下深い地層に埋めることにしているそうです。ですが、日本でも同じようにしようとすると少し問題があります。日本の地層は欧米よりも新しく、軟らかくて水を通しやすい上に地震や火山活動も活発で、深い地層に埋めて安全に管理できるのか、という懸念や不安が消えないのが現状です。

私はこれまで、たくさんのエネルギーの中から、あえて再生可能エネルギーではない、原子力について調べてきました。その中で、すべてにおいて完璧なエネルギーは存在せず、作り出すこともほぼ不可能だということがわかりました。その中で、私が考えた結論は、原子力発電に頼りつつ、日本の主要エネ

ルギーが、太陽光発電、風力、水力などの再生可能エネルギーとなるように研究を進め、最終的に、原子力発電を使用するのを最小限におさえられる社会を築き上げていければよいと考えました。そのためには、私たち一人ひとりが無駄な電気を使わないように日々努力していく必要があります。例えば、電気を使う時間帯を早朝や夜間にずらしたり、照明をLEDに取り替え消費電力を減らすなど、できることから習慣づけていけばよいと考えました。私も今まで、夜遅くまで起きていることが多く、常に電気を使っている状態でしたが、このレポートを書いていくうちに、自分の生活を見つめなおし、早寝早起きを心がけて、電気を使う時間を減らすことができました。一日、二日続けても変わらないと思う人もいると思います。けれど、毎日、一人ひとり努力すれば何であろうと、結果はついてくるはずです。このレポートを読んでもくれた人が、少しでも地球や、人類の未来のために頑張ることができたらよいと思いました。

◎参考

*朝日新聞デジタル（2021年9月30日）「2021年9月18日の日本記者クラブ主催の自民党総裁選立候補者討論会」記事より

*経済産業省 資源エネルギー庁

北欧の「最終処分」の取り組みから、日本が学ぶべきもの①（2020年5月22日）